

倉田 再建派

現大阪府学連執行委員・現市大自治会中央執行委員
総括責任者 宮田

一九六〇年以後、学生運動が分裂と低迷を深める中で、大阪の学生運動は全国学生運動の先頭になつて展開されてきた。大阪大学を中核として昨年の憲法闘争原潜寄港阻止闘争を三千名規模で闘つてきたことは特筆に値する。その成功は何よりもクラスの意志を代表し、その要求と気分を代表したクラス代議員を中心に活発なクラス討議が行なわれたことにある。しかしながら市大の学生運動は学生の基本的な立場を十分基礎にしていなかったから、勇ましい言葉が空しく広範な学生の参加を妨げてきた。

佐藤政府の出現以来、全面的反動化が露骨になり、とりわけアジアにおいて強力な戦争協力政策がすすめられていく。アメリカのヴェトナム侵略に対して、これに積極的に加担する佐藤政府に対して全学生、全国民から抗議の声がわきおこっている。この抗議の声をすべての学生が自らの行動とするためにすべての人が自主的に参加できるような運動をつくりあげていく。

広範な学友の運動への参加がわれわれの闘いの武器である。統一を保障する。分裂した学生戦線の全国的連帯と信頼の回復、全国的統一闘争の実現にむけて全ての努力を傾注するであらう。

香月 再建派

現経済学部委員・経研連合会員

総括責任者 天川

私たちは激動の世界に生きている。その反動の嵐の吹きさす中で、自由を求め、歴史の必然性を模索してやまぬ学生は、若い情熱をもつてぶつかり、自ら歴史の推進者たらんと信じ、またそうすることによってのみ、はかり知れぬ自由を感じるものである。しかし、安保闘争以後、幾多の学生の若き情熱の灯は消し去られ、学生運動は不幸な分裂を重ねた。学生運動はその全国的な指導部を喪失してゆき、過去における輝やかしい伝統にもかかわらず、反動の嵐に立ち向ってゆくにはあまりにも衰弱しきってしまった。そうしたなかで学生は自らの運動の成果による何ものも見えず、あるものはニヒリズムに、あるものは極左冒険主義へと転落していった。

しかしそうした逆境にあらながらも学友の中にとけこんで真に下からの盛り上がりある運動を再建しようとした一部学友の熱心な努力を忘れてはならない。昨年原潜闘争によって巨大な運動が展開できたのもそれらの学友の努力の成果である。そうして今学生運動は新たな局面を迎えつつある。私は安保以後ようやく芽ばえつつある学生運動を育て、再び日本の歴史の上にはなばなく登場せんことを期待してその新たな学生運動の荷い手たる再建派としてここに立候補するものである。

学友の間に、クラスに、サークルに根づいた豊かで底力ある市大自治会を建設してゆくのではない。

伊福 再建派

平和委員会委員長・全学自治会代議員
総括責任者

緑の島沖繩は、アメリカ第七艦隊の基地でもありまた、アメリカは沖繩を不法に占領しているばかりでなく、沖繩を根拠地にして汚いヴェトナム戦争を進行しています。被爆二十周年の今年は、また沖繩占領二十周年の年でもあります。私は今を沖繩がアメリカの占領下にあることを黙っているわけにはゆきません。世界戦争の危機をはらむヴェトナム戦争に沖繩が利用されていることも黙っているわけにはゆきません。沖繩のみならず日本本土の米軍基地、自衛隊基地がヴェトナム戦争の危機な、かけ、に使われていることに怒りを覚えます。一方ヴェトナム危機の深化と共に日韓会談は急速に妥結に向かうとしています。

世界のそして日本の、戦争か平和か、の問題は重要な課題としてのしかかっています。私は過去一年間、平和委員会の委員長として活動してきた経験から、まず平和の問題で自治会活動に貢献したいと願っています。

私は学生の自治組織にとって統一と民主主義がなによりも大切であり、それが過去軽視されてきた事実から自治会民主主義の防衛のために努力したいと思えます。そして私は研究と教育の場としての大学の危機の克服、学生生活向上のために奮闘したいと思えます。

高瀬 再建派

家政学部代議員

総括責任者 佐賀

平和と民主主義、よりよき学園生活、のための諸活動が、佐藤政府の戦争政策、大学に対する攻撃が強まっている中で、何よりも要請されています。はたして市大自治会が、この原則に基づいて民主的に運営されてきたでしょうか。昨年の自治会活動がふり返ってみると、遺憾ながら現在の自治会活動が広範な学友の正当な要求をくみ得ず、学友から遊離していることを認めざるを得ません。これまで自称「主流派」によって自治会民主主義が形骸化され、豊かなアカデミックな学園建設のための闘争がおろそかにされてきている事実を私たちはひてきました。

このような事態を克服する道を、私は五月十五日の「日韓・ベトナム教官・学生討議集会」で示されたような、教官をも含めた多数の学友をまきこんだ形態に見出しました。今そこそこのような全学友の自主的な創意のある活動に根ざした形態が必要とされています。このような形態は、単に政治的課題にとどまらず、現在特に重要な問題となっている学生生活の問題、学問内容では特に要請されているのではないでしょう。

そのためには、民主的厚生部の確立、学部委員会の確立と学部連合の組織化—これらのことを実現していくなかで多面的な自治会活動を発展させてゆきたいと思います。

今岡 再建派

現中央執行委員・現文学部委員会副議長
総括責任者 大平

全ての自治会員が自覚をもつて参加し得る自治会の運営と活動—これが、私がこれまで追求して来、今また立候補にあたって追求しようとして決意していることです。当然すぎることに、市大自治会においてはやはり「追求される課題」として残されています。

それは自治会としてのあがる課題の狭さ、自治会活動の中核活動としか見えない活動形態の狭さ、そして中核の多数にものを言わせた自治会の引き直し……となつてますます全体の自治会員を参加できなくし、時には自治会員の積極的な創意ある活動を抑えてきたのです。

私たち「自治会の民主化」を一貫して主張してきた再建派中執委員は、あらゆる機会に「民主的運営と全自治会員の創意ある活動」を主張してきましたが、全では「多数決」—少数意見を学友に明らかにすることさえ一切行われなりました。

自治会がこんな風に、全ての自治会員に支えられたものでなくなつて行くということは極めて危険です。自治会員の正当な権利を、どこが守り発展させて行くのでしょうか。自治会員に見離された自治会が強力であるはずがありません。

「自治会を自治会員に支えられた強力なものにしなければならぬ」これが私を三度中執選挙に立候補させた一番根本的な要因です。

北井 学生会議

学生会議

僕たちは大学において僕たちは学生のあらゆる可能性を発展させるべきものとして自治会活動を展開している。それは単に身のまわりの条件をよくするためのものではない。「学問」自身がいろいろな規定制をうけているし、それ自身社会的諸関係の反映である。僕たちのあらゆる可能性を実現させるためには社会的学問的諸問題と対決することが不可避である。現在個々バラバラに分断されているコミュニケーションの回復は個別的諸問題との対決なしにはありえない。

僕たちは「暖房費」「後援会」問題にとりくむし、ベトナム戦争反対の闘いを展開していく。また対抗的ななされた中国の核実験にも同時に反対していかなければならない。アメリカのベトナム侵略を「中国封じ込め」ととらえ中国核実験を支持していくような運動は無力である。また中国核実験に破算を宣言された部分核停約を対峙したり、北爆一時停止を「話し合い」の条件を開くものとして闘いの成果だと語ることをもってしては、米のより有利な条件で「話し合い」はいうという意図をこめた北爆停止を美化し、闘いをそこにおしとどめ、一時的な表面的な「平和」を追い求めることしかしない。闘いのこのような歪曲への批判を通して、ベトナム侵略反対・中国核実験反対の闘争を強固に推進しよう。このような闘いを展開しうる田舎として、強力な自治会組織を確立しよう。

山本 革新グループ

責任者 玄番

全学自治会は、確立以来、社学同系の諸君たちによって、活動が指導されてきたが、その政策面においても、組織面においても全学生の基盤と利益からの陰離が特徴的でした。全国の学生自治会も、ほとんど似たような状態にあります。

わたしたちは、今、真に全学生の基盤の上に築かれた学生自治会を考えています。それは、単に、「クラス討議を活発にせよ」とか「中執は、全学生に耳をたたむけよ」とか、いう問題だけでは、解決しえない問題をやらなくてはなりません。

わたしたちは、自治会民主主義の強化とともに、学生自治会活動の方針や政策の不明確さが、従来、全学生の共通の立場を明らかにしてこなかったのであり、全学生の基盤と立場にたつ学生自治会活動の政策をつくりだすことこそ、学生自治会活動を真に、全学生の基盤の上に築く上で、最大の課題だと考えています。

ここでは詳しくはふれられませんが、平和運動が、社会主義運動にすりかえられ、憲法闘争が、平和と民主主義の日本を建設する闘いとしてではなく、単なる「反帝闘争」にすりかえられ、大学の諸問題は、大学を全国的な利益の方向で建設し、日本の文化と大学を発展させるために、とりあげられるのではなく、権力と資本の大学支配を許すな、といったふうに、抽象化されてきたのではないのでしょうか。

桐村 革新グループ

代議員・被告を守る会委員長

今回中執選挙に立候補するにあたり、私の自治会運営の基本的立場をのべたいと考えています。

学生自治会とは何か—大学を全国民の利益を擁護し、発展させていくべき社会的任務をもつものとして位置づけ、そのような大学として発展させるため、自治会は、平和と自由、学問の自律的向上をめざして全学生の積極的な参加のもとで運営されるべきものであると考えます。現在の自治会が、全学生の積極的意識を十分反映しているとはいえません。だが、それにのつとめて、他方では、全学生の代表機関たるべき自治会を、全面的に無視する傾向もあります。私は、自治会発展の展望を、自治会機関を正常に強化する中に見いだすことができず、このようにしてこそ大学に対するあらゆる攻撃に対しても、有効に対抗しうるのだと確信しています。

一方、現在の世界情勢、とりわけヴェトナム、日韓問題は、平和と自由を追求する学生にとっても、全国民とともに一致して、闘いをおこしていかなければならない重大な問題であります。

米政府のヴェトナム侵略反対、日韓会談反対、日本政府の加担反対のため、米政府と日本政府に対する強力な反対運動を、全学友と統一して起していくなかで一派独善の「全学連」ではなく、真に統一的全学連を早急に再建すべく努力していきたいと考えています。

武田 革新グループ

市大における、自治会活動をみると、それは非常に重要な転換期にさしかかっているように思える。現実には、全学自治会の活動が真に全学生の意見を代弁し要求、利益を実現しよう方向にあるかどうかということ、全学生からの遊離が顕著である現在、いかにして、民主的な、全学生の意思のもとにおける学生自治会を作りあげるかということは切実に要求されている問題である。

世界情勢が危険状況にある今、われわれ自身なすべきことは多い。そして、それはまさに日本の問題であり、大学内部における問題でもある。大学問題に限っていうならば、今、重要な段階にある、生協、寮の受益者負担、負担区分の問題、家政、医学部、理工学部の実験実習費の問題、暖房後援会の設置など、それらは全て市予算の減少に根拠を置いている。このような問題に対して、「平和と自由、学問と文化の自律的発展をめざす学生自治会の健全な発展」のスローガンのもとに闘いそして、それは大学の民主化から、国民全体に対する大学の責任に帰着するであらう。

そのために何よりも、自治会の公式機関の民主主義的強化をはかり、全学生の基盤の上に伝統的学連運動の革新をはかりたいと思います。

片山 革新グループ

代議員会議議長・大阪府学連執行委員

総括責任者 芝村

自治会の強化と統一のために—

自治会活動を全学生の基盤の上に確立する上で、特に次の二つが重要だと考えます。

第一は、特に主流派の人たちの政策的誤りです。例えば、ベトナムの討議で「民族革命」を論じ、「社会主義が資本主義か」の選択を強要し、結局、社会主義を選ぶ人々の運動にしようとしていることです。体制の選択や思想が違っても、一切の戦争と内政干渉反対の立場で一致することも、全学連的な運動になる基盤だと考えます。主流派の人たちは、常にこのように、自己の資本主義観や社会主義観を自治会の中にもちこようとして、機関の引渡しをやったのです。

第二は、再建派・民青系の人たちの「下からの」分裂行動です。主流派は誤らっており、自分たちの思い通りにゆかないから、と自治会の機関とは別個に、私的に組織を作つて、「下からの運動」といかに民主的ポーズで（実は、上からの作偽）だが、自分たちのやりたいことをやろうというわけです。これでは、自治会の統一と強化をはかるどころか、意見が違うから行動は別に起す、という分裂主義につながつてゆく危険があります。

私は、誤った主流派の政策と活動を批判し訂正をするのは、自治会機関に参加して活動を進める中でこそ追求されるべきであつてそれでこそ自治会が真の統一と強化、全学生の基盤をもつと考えます。（二面へ）

